藤原基房の別業「松殿跡」発掘調査の概要

2015.3.21

調査場所	京都府宇治市木幡南山	遺跡名称	松殿跡（まつどのあと）
発掘担当	宇治市　都市整備部　歴史まちづくり推進課　℡　0774-21-1602		
発掘理由	遺跡の内容と範囲の確認を行うため（国庫補助事業）		
調査期間	平成 27 年 1 月 19 日　開始　～　平成 27 年 3 月 27 日　終了予定		
発掘面積	約 135 ㎡	発掘深度	0.3 m
検出遺構	土塁　土坑	出土品	土師器片　陶磁器片

１、発掘調査の経緯

松殿跡（まつどのあと）は、木幡南山の松殿山荘（しょうでんさんそう）が建つ丘陵上に所在する遺跡で、源平期の関白である藤原基房（ふじわら もとふさ、1145～1230：平氏政権時の関白）の邸宅跡とされるものです。この遺跡は、江戸時代の『山城名跡巡行志』(1754 年)に「木幡に別業※二つ有、一は松殿屋敷と称す」と記され、松殿と号した藤原基房の木幡別業「松殿」の跡として知られていました。この別業については、同時代の藤原定家によって記された『明月記』(1227 年記事）に「基房が木幡の逆修所※で詩歌会を開いた」との記述があります。

現在は、松殿山荘の建物や庭園が所在する丘陵頂平坦面を囲うように、高さ１～1.8mの高まりが帯状に巡っており、丘陵上や斜面には古道や古井戸跡なども認められます。このように松殿跡は、平安末期の藤原摂関家の別業邸宅が、記録でも遺跡でも推定できる稀な事例として貴重な文化遺産です。

（用語解説）

※別業とは　：貴族の別宅あるいは別荘。田畑や山林などが付属する事例もあり、所有者の政治・経済的基盤としての要素も含まれていたと考えられている。

※逆修とは　：存命中に自分のために仏事を修め冥福を祈ること

２、周辺の遺跡

木幡地区は、平安時代になって藤原氏の墳墓が築造されるようになり、当氏と縁を深めた場所です。松殿跡と谷を挟んだ北側 700mには、藤原道長が一門の菩提を弔うために建立した浄妙寺（1005 年創建、現木幡小学校内）があります。周辺には藤原氏の墳墓群が広がり、そのうちの天皇家に嫁いだ后妃の墓とされる墳墓は、宮内庁治定の宇治陵として管理されています。松殿跡の中にも宇治陵 30-1～3・31 号墓があります。また、現在は残っていませんが、東側の丘陵上には藤原師実（道長の子頼通の六男）の邸宅「京極殿」があったと伝えられ、松殿跡と同じような帯状の高まりが巡っていたとされています。

３、松殿跡と松殿山荘

松殿跡に建つ松殿山荘は、大正から昭和にかけて高谷宗範（たかやそうはん）が、書院式茶道を復興するために建てた茶道の道場で、現在も松殿山荘茶道会の道場として維持管理されています。大書院を中心とした個性的な建築群を核に茶室や庭園が広がり、近代和風建築群としても高い価値を持っています。「松殿山荘」の名は、この道場を開いた時に遺跡の松殿跡にちなんでつけられたものです。松殿山荘の建設にあたって、庭園の池を掘削した際に古瓦が出土したと伝えられています。

４、これまでの調査

平成 24 年度に初めて実施した発掘調査では、丘陵頂部を囲うように巡っていた高さ１～1.8mの高まりが、土を盛ってつくった土塁であることを確認しました。

平成 25 年度は木曽坊跡と伝えられる丘陵西側で発掘調査を行いました。木曽坊跡は曹洞宗の開祖である道元の生誕地との伝承があります。道元の生母は、藤原基房の娘 伊子 です。伊子は内大臣の久我通親に嫁ぎ、道元を生みました。その後、木曽義仲に嫁したため、伊子に所縁のあるこの地が、木曽坊跡と呼ばれるようになったと考えられます。また、木曽坊跡に向かって西側から上ってくる道は、木曽坊道と呼ばれる古道です。調査では関係する建物跡などが期待されましたが、後に営まれた茶畑の跡が残っているだけで、藤原基房や娘の伊子、孫の道元に関係する遺物や遺構は確認できませんでした。

５、発掘調査の成果

今回の発掘調査は、丘陵の頂部を巡る土塁の北辺と南辺の２カ所で行いました。

２６－１調査区

北辺の土塁の中程で、土塁が途切れている場所に調査区を設けました。この場所のすぐ下には北側にある浄妙寺の方向へのびる谷がはいっており、北側からの出入り口とそれに伴う門などの施設の跡などが見つかる可能性が考えられました。表土を取り除くと、大正時代に松殿山荘を建てたときの排水溝や盛土がでてきました。松殿山荘が建てられた当初には、土塁の外側の里道への出入り口が設けられていたようです。その後、後世の盛土や堆積した土を取り除いて調査を行いましたが、門などの施設の跡は確認できませんでした。また、土塁の一部を断ち割って、どのように土塁が築かれているのかを調べました。その結果、土塁の下で土塁を築く前の地面が外側に向けて斜めに下っていくことが確認できました。丘陵の頂部を削ってつくった平坦面の縁から斜面にかけて土塁を築いているとみられます。

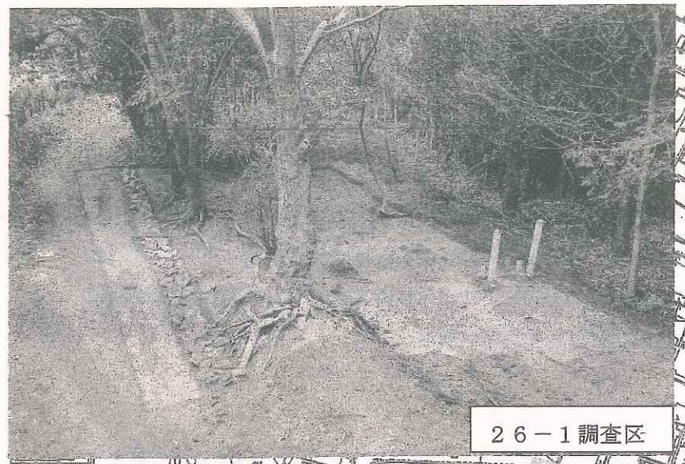
２６－２調査区

南辺の土塁の屈曲部に調査区を設けました。北側と同様に丘陵の頂部を削ってつくった平坦面の縁に土塁を築いていることを確認しました。土塁の外側に土坑がありましたが、遺物はなく、性格はわかりませんでした。

６、まとめ

今回の調査では、丘陵の頂部を削ってつくった平坦面の縁に土塁を築いていることがわかりました。丘陵頂部の平坦面とその周辺を巡る土塁を築くために、大規模な造成工事を行ったとみられます。今回の調査ではその時期を窺い知ることのできる土器などの遺物は出土しませんでしたが、今後も発掘調査を進め、この土地の歴史を解明し、松殿跡の保存に向けて取り組んでいく計画です。

松殿跡　平面図



２６－１調査区

浄妙寺跡

平成 25 度
調査地

木曽坊道

木曽坊跡
曹洞宗開祖道元の生
誕地との伝承がある

今回調査地
26－1 調査区

平成 24 度調査地
丘陵頂部をめぐる
土塁を確認した

今回調査地
26－2 調査区

京極殿跡
藤原師実邸宅跡
との伝承がある

２６－２調査区

遺跡の範囲
土塁
古道
平坦面
宇治陵
S＝1／2000